

# 埼玉岳連

埼玉県山岳連盟  
埼玉岳連報 第36号

発行者 森下 健七郎  
発行所 岳連事務所 天野賢一方  
〒333-0823  
川口市石神179-40  
編集人 岩井田 正昭  
発行部数 1600部



埼玉岳連：平成22年度 評議員総会

平成22年、23年度の役員が左記の通り  
評議員総会に於いて決定しました。

### 《埼玉県山岳連盟・役員》

会長 森下健七郎 高体連

副会長 柳原 政一 小鹿野山岳会

副会長 石倉 昭一 大宮アルパインクラブ

副会長 福田 靖 たらつぺ山の会

監事 佐藤 求 あゆむ山の会

監事 内野 安登 エコー山の会

理事長 天野 賢一 遠峰山岳会

副理事長 瀬藤 武 浦和溪稜山岳会

事務局長 加藤 富之 深谷山岳会

会計担当 町田 週一※大宮アルパインクラブ

会計担当 塩谷 壽子※大宮山岳会

名誉顧問 浅見 豊 恵流峰会

名誉会長 田中 文男 浦和山岳会

参与 井上 守司

野井 篤 小鹿野山岳会

北 千恵吉 本庄山の会

井古田忠男 浦和西岳友会

北田 紘一 奥武蔵ワンダーフォーゲル

新井 宏司 高体連

大野 好司 深谷山岳会

武井 正男 浦和溪稜山岳会

中田 弘 小川山の会

平沼 伸一 浦和溪稜山岳会

牧野 要雄 戸田山の会

大野 幾雄 山岳同人埼玉

柳下 明 桶川山の会

大久保 孟 ※新任

# 《平成22年度評議員総会》報告

1. 期日：平成22年4月18日(日)

14時30分～17時

2. 会場：上尾文化センター

出席者名〔所属会〕： ※敬称略

## ◆評議員

： 26名

内野操〔川口〕、倉持聡志〔ピオレ〕、岩武成秋〔日産〕、三ツ木達夫〔蕨〕、田中文男〔浦和〕、佐藤求〔あゆむ〕、芝田信子〔桜草〕、天野賢一〔遠峰〕、山本雄治〔大宮〕、石倉昭一〔大宮AC〕、吉田秀夫〔JR大宮〕、塚越国雄〔深谷〕、福田靖〔たらっぺ〕、宮田征治〔壁稜〕、長谷川茂〔熊谷〕、太田忠雄〔エコー〕、柳下明男〔同人埼玉〕、森下健七郎〔高体連〕、矢萩実〔ボルシチ〕、森田陽一〔ピナ〕、柳原政一〔小鹿野〕、佐藤豊〔MAS〕、金澤和則〔山塾〕、竹腰昌信〔TMGC〕、掛川統之〔溪稜〕、大光山一〔同人比企〕。

## ◆評議員代理

： 9名

渋谷直克〔西岳友〕、大成義之〔アルピナ〕、鈴木正一〔越谷〕、岩崎繁夫〔戸田〕、榎本昇〔蓮田〕、田中宏明〔岳稜〕、仙波義雄〔槻〕、岩井田正昭〔川越〕、伊藤正孝〔防衛医大〕。

## ◆委任状提出

： 8名

関根善昭〔浦和山友〕、森良治〔桶川〕、小高英雄〔アルム〕、井上信太郎〔吉田〕、原久三〔登高会〕、平野新一〔毛呂山〕、阿部真也〔城西大〕、斉藤尚之〔獨協大〕。

議決権数・合計43名

## ◆理事出席

： 33名

岩崎秀保〔川口〕、斉藤勝男〔蕨〕、田中

文男〔※〕、渋谷直克〔※〕、野村善弥〔あゆむ〕、堀江伸子〔桜草〕、天野賢一〔※〕、塩谷壽子〔大宮〕、町田週一〔大宮AC〕、大成義之〔アルピナ〕、吉田秀夫〔※〕、加藤富之〔深谷〕、竹中聖一〔たらっぺ〕、桜井勝伸〔壁稜〕、長谷川茂〔※〕、室伏秀三〔エコー〕、柳下明男〔※〕、岩崎繁夫〔※〕、岡野敏〔蓮田〕、松井恒和、小茂田利孝、鎌田雅浩、大石智章〔高体連〕、道浦陽司〔加須〕、矢萩実〔※〕、土屋正昭〔ピナ〕、柳原政一〔※〕、大倉至〔MAS〕、仙波義雄〔※〕、岩井田正昭〔※〕、竹腰昌信〔※〕、瀬藤武〔溪稜〕、伊藤正孝〔※〕、大光山一〔※〕 ※は評議員

## 3. 総会次第 司会

： 加藤事務局長

(1) 開会の言葉

： 福田副会長

(2) 会長挨拶

： 森下会長

(3) 議事

(議長は規約第22条2項・評議員より選出)により福田副会長の推薦で塚越評議員〔深谷山岳会〕を議長に指名、賛成多数で議長就任を承認。  
議長 長 塚越評議員〔深谷山岳会〕  
議事録署名人：岩井田理事〔川越山の会〕  
大会成立宣言：加藤事務局長より  
規約26条・定員の過半数(43/61)で会議成立を宣言  
塚越議長挨拶：不慣れですが皆様の協力をお願いいたします。

## 記

### 第1号議案 平成21年度事業報告

○各委員長より事業報告(詳細は資料参照)  
県岳連事務局 加藤事務局長  
指導委員会 野村委員長

## 国体委員会

： 土屋(代)

クライミング委員会 土屋委員長

選手強化委員会 大倉委員長

遭難対策委員会 瀬藤委員長

海外登山委員会 天野委員長

自然保護委員会 岩崎委員長

ジュニア委員会 大石委員長

広報委員会 岩井田委員長

企画委員会 加藤(代)

↓第1号議案 可決承認

### 第2号議案 平成21年度決算報告

●決算報告：加藤事務局長  
年度決算報告及び選手強化・派遣費関係会計、特別会計の各報告を行う。何とか赤字にはならず、財政は厳しい状況である。

●監査報告：内野監事  
監事：内野安登・佐藤求

『監査の結果総て、適正に処理されていることを報告します』内野安登

↓第2号議案 可決承認

### 第3号議案 「埼玉岳連」の規約改訂について

※加藤事務局長より趣旨の説明  
規約改正、国体委員会とクライミング委員会を合併して「競技委員会」に改正する、これは日山協の組織改革に連動して改正するもの。

規約を平成22年4月18日付一部改正する。  
↓第3号議案 可決承認

### 第4号議案

平成22～23年度埼玉県山岳連盟 役員改選  
特別に立候補なく森下会長以下の役員が賛成多数により可決承認された、また森下会長は2期目での退任を表明された。

今後2年間は役員改選の準備が必要となる。  
↓第4号議案 可決承認

【22・23年度役員】

※岳連報・IPを参照

《今年度・専門委員会・委員長》

指導委員会 : 野村善弥 (再任) あゆむ山の会

競技委員会 : 土屋正昭 (再任) 加須ccピナ

選手強化委員会 : 宇津木秀二 (※) 高体連

遭難対策委員会 : 瀬藤武 (再任) 浦和溪稜山岳会

海外登山委員会 : 鈴木直樹 (※) 浦和溪稜山岳会

自然保護委員会 : 岩崎繁夫 (再任) 戸田山の会

ジュニア委員会 : 大石智章 (※) 高体連

広報委員会 : 岩井田正昭 (再任) 川越山の会

企画委員会 : 村岡正己 (再任) 加須SCC

第5号議案 平成22年度事業計画案

○各委員長からの計画案を発表する。

①指導委員会 : 野村善弥

※指導員養成研修会の開催 昨年度開催出来なかつた為、東京都体育協会と都岳連に協力を願ひ、開催出来る事になった。

②競技委員会 : 土屋正昭

③選手強化委員会 : 宇津木秀二

④遭難対策委員会 : 瀬藤武

⑤海外登山委員会 : 鈴木直樹

⑥自然保護委員会 : 岩崎繁夫

⑦ジュニア委員会 : 大石智章

※全国高校生クライミング大会開催

日山協の50周年事業の一環、昨年開催を検討したが開催許可が下りず、今年50周年を記念して試行的に開催することになった。

⑧広報委員会 : 岩井田正昭

※昨年に引き続き36号、37号、38号を発行予定、会の動向、山行報告、計画の情報や発行誌を提供ください。

⑨企画委員会 : (代)加藤富之 村岡正己

↓第5号議案 : 可決承認

第6号議案 平成22年度予算案

加藤事務局長から予算案の提示

今年度は所属証明書発行年度(2年毎)で多少の余裕が出来そうなので、最初から会員登録収入の半額を次年度に繰り入れ計上します。皆様のご協力をお願いいたします。

↓第6号議案 : 可決承認

これを持ちまして総ての議案は承認されました。皆様の御協力ありがとうございました。

ここで塚越議長は任を解かれ退席する。

その他

その他の項目について加藤事務局長から説明。

①第4回田中名誉会長賞の授与について

今年度は、昨年9月の「埼玉チヨール・オニュー登山プロジェクト」09隊(隊長・大光山一) :



田中賞御礼の言葉を述べる大光山一氏

東松山山岳会+風間進: 浦和溪稜山岳会) が受賞、(埼玉岳連、初の8000m峰登頂、中

高年・団塊世代での登頂、約1ヶ月間での短期速攻による高峰登頂)を推薦理由で表彰を受けた。大山隊長が代表して田中名誉会長から賞状と賞金10万円が授与され、感謝の言葉と今後の抱負を延べて授賞式を終了した。

②日本山岳協会からのお知らせ

「創立50周年記念イベント」への参加協力願いを、田中名誉会長: 日山協会会長より直々に説明があった↓案内は巻末ページを参照

③新規加盟団体の紹介。

「山学同人比企」(代表: 大光山一) が、東松山山岳会より独立し、単会加盟となる。

④退会団体の挨拶

「蕨ハイキングクラブ」が、クラブの総会で県岳連より退会を決定。三ツ木会長が、今までの、ご厚誼に対し感謝の言葉を述べられた。最後は石倉副会長の閉会の言葉で、総会を終了した。

議事録作成 加藤富之  
議事録署名 岩井田正昭

.....

【平成21年度・会計監査】

4月18日11時より上尾駅ガストにて会計監査を実施。出席者は左記の通り。

監事: 佐藤求 「あゆむ山の会」、

内野安登 「所沢エコー山の会」、

会計担当: 加藤富之 「深谷山岳会」、

選手強化担当: 大倉至、小茂田利孝、宇津木

秀二(高体連)、町田週二(大宮AC)」

監事による会計記録、会計処理を監査し終了。

13時より理事、評議員などによる会場設営

や準備、総会資料作成。会長、副会長は、事前協議を行う。

【平成21年度4月理事会】開催  
平成22年4月18日(日)13時50分〜14時20分

1・開会挨拶：柳原副会長・

会長挨拶：森下会長

2・理事会

総会資料の説明1号議案〜6号議案について、新理事の紹介、各委員長から変更内容の説明。自然保護委員会については別途、すりあわせ協議とする。↓加藤事務局長  
田中賞受賞対象について執行部案を説明。  
推薦理由を説明 ↓森下会長  
理事会の全員異議なしで承認となる。

3・閉会挨拶：石倉副会長

終了

文責・広報委員会 岩井田正昭



評議員総会・会場風景

《県岳連22年度海外登山委員総会》開催

4月10日 東松山市内で海外登山委員総会が開催された。天野委員長他14名が参加。

今年度の役員改選に伴い、天野委員長から鈴木直樹氏(浦和溪稜山岳会)に交代があり鈴木新委員長の下、新旧年度の報告、計画などの討議が活発に行われた。

主な計画として、「パルドールピーク」の遠征が予定されており、鈴木百合子・委員が参加。

マナスル(8,163m)・大光山一会員他は2011年に延期となった。今年度も海外登山関係の講演会を行う予定。又今後の遠征に関する岳連隊の規定などを盛り込んだのガイドラインを作成する予定。総会終了後、懇親会を開催、昨年の海外登山の貴重な記録などの映像を鑑賞した。

現在の海外登山委員数は22名。2ヶ月に1回火曜日・さいたま市で例会を開催。



海外登山委員総会の会場にて

《積雪期緊急避難講習会報告》

瀬藤 武

積雪期緊急避難講習会が2月27及び28日の両日にわたり、谷川岳の麓、指導センターすぐ上で行われました。参加者は、一般受講19名、指導員研修3名講師・スタッフ6名の計28名でした。

高速道路の渋滞や雨降りの天候及び高速道路での道迷いにもかかわらず、12時30分前には全員が集合でき、久しぶりの再開に話も弾んでましたが、時間前の集合を願うミーティングの後雨の止んだ中、現場に向けて出発しました。

現地では、講師によるデモンストレーションで特に緊急時における風雪を避ける為のブロックの作り方、ツェルトの活用を講師によるデモンストレーションを行い参加者に体験してもらい有効性の確認をしました。その後、雪洞構築の前にスノーシェルター構築のデモを行いました。従来は雪面にザックを並べツェルトで覆ってからの雪を積みましたが、今年は切り出し作業軽減の為雪面にブロックを2段ほど積んでからザックを並べツェルトで覆う方法を指導しました。まあ皆さん元気で「壁が薄いから」「3人しか寝むれないから」「楽しいから」と緊急避難用のスノーシェルターがどんどん大きくなり立派なまくらが出来ました。本日最後の講習で今晩宿泊用の雪洞構築に入りましたが、雪が硬くなりずいぶん苦労されて時間切れで完全構築は出来なかった方も快適な一夜を過ごされたようです。その後の体調はどうだったでしょう(これを書いて今、とつても腰が痛いです・・・私だけ?)

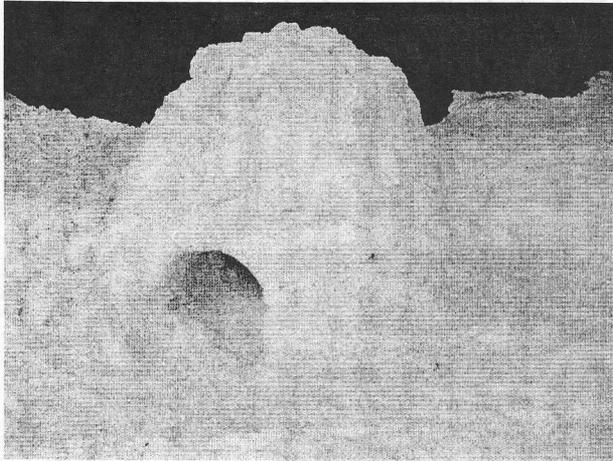
翌28日は朝から雨に見舞われ、表に置いたザック等がぐっしょり濡れているにも関わらず7時より雪の中で講習を開始しました。そのままの雪面と踏み固めた雪面でのアンカー支持力の違いやアンカー材

料による支持力の違い及びスリングの設定位置を各自変更し体験して頂きました。特にスリングの埋め込みによる支持力アップとピッケルアンカーの場合に足で抑えることでの支持力アップと太い杖を使う場合の支点位置及び小杖を使う場合の2点支持を強調し指導しました。その後雪も激しい為、楽しい一夜を過ごした雪洞を涙流して埋め戻し登山センターへ移動しツェルト搬送講習とセンター前の斜面での引き降ろし、引き上げ及び負傷者体験を行いました。強調したのは、負傷者の保温と頭部の保護です。意外と忘れられているのが負傷者の保温です。銀マット1枚程度では負傷者の保温が充分でなく低体温になることもあります。当会の髭のおじいさんが低体温になったこともあり今回は銀マットを4枚使い負傷者役は雪の中ぜんぜん寒くなかったとのこと。そんなこんなで時間となり、皆さん充分満足(???)し参加者全員で広報用の写真を撮り解散となりました。

従来の遭難対策委員会は遭難救助隊のイメージが多いようですが昨今の防災ヘリの活躍で救助出動に要請も少なく、救助以前のセルフレスキューやセルフガードの考え方が浸透してきております。

広報やホームページでも通知されておりますが、今後は救助隊のイメージは横に置いて『セルフレスキュー研究会』的な基礎技術を目指したいと考えております。すでに複数名の方が参加申出しております。皆さんの持っている技術を仕舞い込むことなく公開して頂いて救助技術や救助基礎を県岳連及び登山者へ水平展開し遭難の防止に繋げたいと考えております。遭難の防止を考えた事のあるあなた、自分の技術ではと考えているあなた、まず参加してみませんか。現在募集中です。平成22年3月3日

※編集集注 報告者は県岳連・遭難対策委員長



緊急避難用Jeltarが完成!



土合指導センター前で参加者全員

《平成22年度 自然保護委員総会》

4月10日小鹿野町旧倉尾小学校にて総会を開催し自然保護委員会・新井顧問、県岳連・森下会長など27名が参加。開会に先立ち地元の中豊彦氏による「両神山の自然について」の記念講演を戴いた。

岩崎委員長挨拶、森下会長の来賓挨拶のあと議事を行い21年度の活動、決算報告の他、22年度の活動計画、予算案について討議が行われ総て承認可決された。主な行事計画は左記のとおり。

- 4月10日、11日：旧倉尾小学校 ・ 自然観察会
- 5月22日、23日：信濃わらび山荘 ・ 自然観察会
- 6月5日、6日：県立自然公園 ・ 清掃登山
- 8月17日、19日：三峰「岳人の家」・ 登山教室
- 9月11日、12日：和名倉山 ・ 植林地整地登山
- 3月13日、14日：雲取山 ・ 自然観察会
- 23年4月 ・ 旧倉尾小学校 ・ 委員総会

《21年・夏の記録《屏風レポート》 後編

大宮アルパインクラブ

8月15日 「35号より続く」  
 2:30起床、4:15出発、5:155-6のコル、8:00前穂頂上(途中のリードは福原9:00頂上で1時間昼寝の後、11:00奥穂頂上、15分休憩の後11:15下山開始。徒歩2時間のコースを走る、跳ねる、飛ぶ。12:20涸沢到着、13:00だらだらと片付けて上高地へ下山開始。16:15横尾、ここから、私が走っても追いつけない速さでの競歩。17:05上高地(村上)18:00(福原) 18:10(菅野)

昨夜寝たのは、10時半だったはず。2時半ころ気がつくと、村上さんがもそもそおきているではないか。「前穂にいくならもう起きないと」私は寝ぼけて「そんなあほな」と思いながらも、すぐ諦めて、準

備を始める。それでも昨日ほど、てきぱきとは行かず、結局出たのは4時すぎ。そこからが早い。歩き始めると、まあ昨日の疲れもかなり回復している。3人とも覚醒したところには前にいた全てのパーティをごぼう抜きして、5、6のコールで朝日を拝むことができた。昨日以上に晴れており、遙か遠くまでみわたすことができた。ここからの槍、実にかっこよかった。さて、第5峰、4峰、ときて、3峰の1ピッチでロープをだす。リードは昨日できなかった福原さん。この3人なら大丈夫でしょうと、クライミングシューズはかず。でもこの出だしは怖かった。さつき抜いた2つのパーティはすごいですねえとコメントを残し、巻いて行った。今日一番の核心部はこの出だしでした。あとはロープを出さず、オールフリーソロ。確かにここなら出すほうが面倒かもしれない。快適なクライミングを楽しんで、登頂。休まずさっさと行くかと私と福原さんの予想に反し、村上さん、ここで寝る。やはり、みな昨日の山行がこたえたのだろう。だれも動かない。これからの長い道のりがあるのだ。動きたくない。たつぷり1時間の休憩の後、奥穂へ、昨日の疲れはたつぷりと残っている。足取りはよくなっていく。岩登りはウサギのように早くても、縦走ののぼりはいまや亀の歩みである。途中村上さんにロープを渡す。天下の村上さんも昨日の疲れが残っているようだ。安心した。奥穂頂上では登山者が一人背中を打ったかたで動けなくなっていた。さて、程なくして下山開始。ここからが早い。下山路、ザイテングラートなるドイツ語の響きのいい稜線を下降。言葉の意味はseitentrat (支稜線・支尾根) だそうだ。小屋からは大きな石が丁寧に並べられていたおかげで、先頭の福原さん、走って飛んで跳ねていった。あとで聞くと、後ろの村上さんにおおられたとか。私はマイ

ペースで行き、渋滞にはまった2人に追いついたり、離されたりを繰り返して、結局あらぬ速さで濁沢到着。コーラを買って乾杯。もうぐったり。私は食べものがそこをついたので、こっそり小屋でおでんを食べる。ビールが飲みたくなるが、下山だから我慢。さすがに、昨日の疲れ、今日の疲れがまわって、恐ろしくスローな撤収作業。ガチャの合わせ作業もカラビナのゲートをあけることにさえ億劫さを感じてしまう。これから、5時間の道のりを考えると気持ちもますます億劫だ。まあ、今日の帰りのことを考え、いつまでもそこにいてもしょうがないのでいざ上高地へ。穂高連峰を背に下界への長い追のりをたどりはじめた。すぐにヘリがとぶ。どこかだけが人がでたのか。さて、この下山の最初に確認したこと「村上さん、帰りは絶対に走らないでくださいね(笑)」と福原さんが村上さんに約束をとりつける。約束とおりに横尾までのんびり。さて横尾にて、私と福原さんと村上さんの会話にて、「帰りのバスはあるかな」「タクシーがあるでしょ」「このまま3時間歩くと、帰りの風呂がしまってしまうんじゃない?」「うーん・・」「どこかあいているところがあるでしょう」「そこに入ろう」なんて会話の後、横尾を出発。帰りを意識してか少し早歩き。まあこれくらいならいい。福原さん「このペースを維持すれば2時間ですみます」とかいいつつ、福原さん一気に加速。私も村上さんも戸惑いつつもついていく、そして村上さんに火が点いた・・。私が走っても追いつけない速さで歩いていく。なんでこうなの?と思いがちな私も私は下山は森の美味しい空気を楽しむモードに入る。その後みるみる、二人の影はみえなくなる。まあ、いつか。私の到着より20分以上も早くついたらしい。上高地は最終バスが出るところだった。大型タクシーを捕まえ、他のパーティと同乗して沢渡

へ。帰りは公共の浴場へいく。そこで風呂をあび、コーラで乾杯し、カツ丼を食べたつぷり2時間寝て10時そこそこ出発。お盆の渋滞に巻き込まれながら自宅についたのはみな3時ぐらいか福原さんに皆家まで送ってもらおう。こうして我々の大きな山行は幕をとじた。

最後に屏風岩に登る計画がでたのは6月頃それから、何回か3人でトレーニングを積んだ。越沢バツトレス、つづら岩、そして天覧山の救助訓練。つづら岩では、実際の荷物を想定してザックを担いでのクライミング。天覧山では、本チャンで誰が落ちても救助できるように、ぴっちり訓練を行った。それでも正直救助訓練はまだ十分とはいえない。そして、何度もロープを3人で結びながら、持参するギアの確認を何度もし、食料の確認をし、持ち物の確認をしてきた。今回のように私にとつて未知のグレードの岩を本チャンで登るのに、かけてきた時間はすべて、この屏風岩へのクライミングの途中にあるものであり、当日までのこうしたプロセスをたどることに大変な充実感と満足感と、楽しみを覚えた。

何より、こうしてロープを結んだ3人が共有した時間の長さだけ、2日目にほうほうのいで、濁沢に辿り着いたときの達成感を互いに共感することが大変ありがたかった。このような山行は私にとつて初めてであり、言い知れない充実感を得られたのはいうまでもない。この山行が成功のいたるまでの道のりは、村上さんが全てレールをしいてきてくれた。名実ともにリーダーとして、そして我々の師匠としていろいろと世話をかけてくれた村上さんには感謝の思いに耐えない。さらに、村上さんに加え、かなり大きな体の故障を抱え、山行も危ぶまねながら、体を鞭うって山行をともにした福原さんに、こうして互いに大きな山行を達成できたことに感謝します。ありがとうございます。

報告者 福原

## 共済会について

平成22年度「日本山岳協会山岳共済会」中途加入を 受付中！

入会金  
無料

「山岳共済会」(入会費無料、年会費1,000円)

※高校生又は18歳未満の場合は年会費500円です。

- 山や自然が好きな人の相互扶助と自立をめざす仲間の集まり、それが、「日本山岳協会山岳共済会」です。
- 山岳共済会は安全登山をめざし、登山技術の向上や普及、遭難予防と対策など各種の事業を支援しております。
- 山岳共済会は日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、4万7000人の会員を持つ最大級の山岳共済です。
- 山岳共済会会員向けに各種補償制度を準備しています。山岳共済会への入会を、是非ご検討ください。

### 会員規約

#### 1. 会員証

団体傷害保険加入者証と兼用の会員証をお送りします。共済会のみ加入の方には共済会員証の葉書をお送りします。いずれも本人のみが使用できます。

#### 2. 会費

入会金無料、年会費1000円(高校生及び18歳未満は500円/加入年度の4月1日時点)

#### 3. 更新手続き

更新月が近づきましたら、共済事務センターより更新案内を郵送させていただきます。更新年会費のお支払いは、同封の郵便振込み用紙でお振込みください。期間は4月1日から翌年4月1日午後4時までです。

#### 4. 届出事項の変更

氏名、住所など届出事項に変更があった場合は、当会または共済事務センターへご連絡ください。ご連絡がない場合、ご通知などお届けできず特典が受けられない場合があります。

#### 5. 会員証の再発行

団体障害保険加入者証と兼用の会員証をお送りします。共済会のみ加入の方には共済会員証の葉書をお送りします。いずれも本人のみが使用できます。

お問合せ先 日本山岳協会 山岳共済会 〒170-0013 豊島区東池袋 3-7-1-707

TEL・03-5958-3396; FAX・03-5958-3397 E-mail [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)



## 社団法人日本山岳協会

## 創立 50 周年記念事業募金のお願い (依頼)

時下、益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。平素より本会の事業運営に多大なご協力とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、社団法人日本山岳協会は2010年、創立50周年を迎えました。1960(昭和35)年、全国の都道府県山岳連盟(協会)で結成された全日本山岳連盟と(社)日本山岳協会が協議して日本山岳協会が誕生しました。爾来、日本の登山界を代表する団体として、広く国民の登山活動を対象に安全登山と山岳環境及び山岳文化に配慮した正しい登山やスポーツクライミングの指導普及を図り、その健全な発展に大きく貢献して参りました。これも皆様のご理解とご支援の賜物と深く感謝しております。

この周年慶事を迎え、本会では創立50周年を記念して様々な記念事業をこの1年間を通じて展開する予定であります。記念事業のコンセプトとしては、ただ50年の歴史を振り返るだけでなく、登山界の活性化に繋がるような実りある未来志向の格調高い記念事業にしたいと念じております。

つきましては、創立50周年記念事業募金のご協力をお願いすることにしました。厳しい経済環境の中での募金活動ですが、多くの方々のご支援を賜り、是非とも目標額を達成し、記念事業を滞りなく展開したい所存です。

ご理解ご協力のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

2010年4月吉日

社団法人日本山岳協会 会長  
創立50周年記念事業実行委員会 委員長  
創立50周年記念事業募金委員会 委員長  
田中 文男

【募 金 名 称】 (社) 日本山岳協会創立50周年記念事業募金  
【目 標 額】 500万円  
【期 間】 2010年4月1日～2011年3月31日  
【対 象】 個人：1口 5,000円 (なるべく2口以上でお願いします)  
法人：指定なし

## 【払込み方法について】

みずほ銀行 渋谷支店 普通口座 1323253  
口座名「社団法人日本山岳協会50周年記念事業口」  
(郵便局の郵便振替払込用紙が使われる場合は、口座記号番号:00110-5-546693、  
加入者名：社団法人日本山岳協会、通信欄:50周年記念事業募金、とお書き下さい。)

## 【寄付者の顕彰】

ご寄付いただいた皆様のご協力に感謝し、寄付者のご芳名を登山月報に掲載させていただきます。(ご希望により掲載しないことも選択できます。)また、50周年記念ピンバッジを進呈させていただきます。

## 【お問合せ先】

社) 日本山岳協会 〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内  
TEL:03-3481-2396 FAX:03-3481-2395  
E-mail:info@jma-sangaku.or.jp HP:http://www.jma-sangaku.org



《コバトンカップ》

ボルダリング in ロッククラフト川越

第23回県総体大会兼国民体育大会埼玉県予選会

趣旨：ボルダリング競技の普及の為に愛好者の日頃培った技術の披露と交流及び国民体育大会・埼玉県代表候補選手の選考

主催：埼玉県、埼玉県教育委員会、埼玉県体育協会、埼玉県山岳連盟

主管：埼玉県山岳連盟（競技及び選手強化委員会）  
後援：ロッククラフト川越（社） 日山協（予定）  
日時：2010年6月13日（日）

受付 8：00～8：30  
開始 9：00～終了17：00（予定）

会場：ロッククラフト川越（〒350-1122川越市 脇田町32-3 三豊ゴム川越ビル）  
(Tel/Fax 049-226-1426)

カテゴリ： エキスパート・ミドル・ビギナー・キッズ

※ ルートセット等の準備作業の為、参加選手は前日6(土)のRC・川越ジムの利用は「遠慮下さい」。

※ 本大会は国民体育大会埼玉県予選会を兼ねており、対象部門の成績は県代表候補選考に考慮されません。

※ 参加締め切りは終了しております

応援を宜しくお願いします!!

《平成22年度国際委員総会及び

第29回海外登山遭難対策研究会開催のお知らせ》

標記のことについて、左記実施要項により開催いたしますので関係者が参加下さるよう通知いたします。

記

期日：平成22年6月19日（土）～20日（日）

会場：公共の宿 日光市宮交流促進センター

栃木県日光市所野2854 TEL：0288-54-0288

参加対象：

(1) 日本山岳協会役員及び国際委員会常任委員

(2) 都道府県岳連（協会）国際・海外担当者

(3) 講師をお願いする海外登山経験者・研究者

(4) 海外登山に関心を持ち、参加を希望する方

費用：参加費10,000円（宿泊食費及び資料代）  
懇親会 3,000円（当日徴収）

持参品：筆記用具、寝間着、髭剃り、歯ブラシ、タオルなどの洗面具等必要と思われる物

6月19日  
オリエンテーション・「国際委員総会」

21年度事業報告及び収支報告  
22年度事業計画及び予算報告

UIAA及びUAAの報告・50周年事業、その他  
6月20日

海外登山遭難対策研究会  
講演「ヒマラヤにおける気象予報を活用した登山」

講師 北日本海外登山研究会・保坂昭憲氏  
講演「ヒマラヤにおける最新気象技術」

講師 猪熊隆之氏  
講演「ヒマラヤの醍醐味」

講師 在ネパール・元大使 神長善次氏

※ 参加希望者は県海外担当者へご連絡ください

《登攀技術講習会・指導員研修会のお知らせ》

指導委員会・遭難対策委員会  
所属会員の皆様におかれましては、日頃より岳連活動に関しご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

早速ですが、平成22年度登攀技術講習会を左記の通り開催しますのでお忙しい中、大変恐縮ですが万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願いいたします。

また、当講習会に併設して指導者研修会を実施いたしますので併せてご参加いただけますよう宜しくお願い申し上げます。（指導員各位への案内はこの案内にて代えさせていただきます）

記

1. 趣旨：登攀技術の普及と技術向上を目的とする  
2. 主催：埼玉県山岳連盟（主管・県岳連 指導委員会・遭難対策委員会）

登攀技術講習会

3. 期日：平成22年6月20日（日）

4. 会場：天覧山（埼玉県飯能市）

5. 参加資格：埼玉県山岳連盟所属会員

6. 指導講師：日本体育協会公認指導員

7. 日程：（小雨決行）  
6月20日（日）集合8:30（飯能市市民会館 駐車場）講習開始9:00・実技講習終了16:00

8. 講習会内容①クライミングロープ・ボディハーネス②随時登攀、③制動確保、④懸垂下降

9. 装備：登攀のできる服装で次の用具を持参のこと  
①サイズM/Lのデニムパンツ②筆記具、その他登攀用具、フライングローブ（2～3名に1本）

【ヘルメットの無い方は当日参加できません】

10. 食料・行動食は各自

11. 参加費用・2000円(当日徴収いたします)

12. 申し込み先・指導委員会(担当野村)まで郵送・

FAX・メールしてください。

野村善弥宛・ymom36@yhb.ne.jp

〒330-0043 埼玉県さいたま市浦和区大東

1-15-34 TEL&FAX 048-885-1470

13. 申込締切 6月12日(期日厳守)

14. 募集人員 30人先着で定員締め切り

15. 講習内容 経験レベルに応じたクラス分け講習

中上級クラス・岩登りの経験者おおよそ3級レベルのリードが出来る方。

初級クラス・岩登り初めて、それと同等のもの。

指導員研修会

指導員の皆様におかれましては次の趣旨により、指導員研修会を実施いたしますので参加されますようお願い申し上げます。

日山協は47都道府県の集まりで構成されており、各県単位の岳連組織が日山協の一部である。

これまでの『日山協方式』と言われてきたものは便宜上47都道府県の申し合わせで一番合理性が有り、普及性の高い技術を決めてきたものに過ぎない。

したがってそれよりも良い技術があれば、それを日山協標準の技術とすることも可能であります。指導員規定の中にも技術(指導技術)の研究義務が定められております。

山岳に関して指導者・更新登録要件が従来の(財)日本体育協会の研修会出席義務が不要となった代わりに山岳技術・研修会出席が義務化されております。

指導員各位におかれましては、これまでの経験理論に基づいた新技術の発表・研究の場を研修会とい

う形で提供しますので提案・発表者としての参加、単に技術習得の場として活用なされますようお願い申し上げます。

日程(小雨決行) 6月20日(日)

集合 8:30(飯能市市民会館駐車場)・

講習開始:9:00~実技講習終了16:00

1. 研究テーマ ① 制動確保と自己脱出法

② その他登攀技術

2. 参加費用 無し(指導員会費に含まれる為)

3. 申込み先 指導委員会(担当野村) 前項と同じ

4. 申込締切 6月12日

『日山協・50周年記念バルドールピーク登山隊』全員無事帰国

去る5月2日、日本山岳協会創立50周年記念して

ネパールへ遠征していたバルドールピーク登山隊が無事帰国しました。この登山隊は IJAA 合同で、日本・韓国・ネパール・モンゴルの合同隊27名(隊長:八木原 園明 氏)で構成され、同峰の5743mピークに17名が登頂しました。

※この項・写真とも 日山協HPより抜粋

「鈴木(巨) 委員↓海外委員会MLあて」

今朝、無事バルドールピーク遠征より戻りました。楽しく、有意義な体験でした。

登頂については、氷河をへて雪稜を第2峰まで登りましたが(5500mあたり)、本峰への登頂は中止されました。あと少しでしたが・・・ヒマラヤを知って山がもつと好きになりました。貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。 ※鈴木百合子さんは県岳連・海外登山委員メンバーの1人で埼玉県から紅一点参加されました。

※詳細は37号で遠征報告します・広報 岩井田

【編集後書】

韓国籍・女性登山家(吳銀善)さん(44歳)が8,000m峰・14座すべて登頂の偉業を達成(4月末にアンナプルナ1峰に登頂)。世界初の栄冠を手中に収めた。(足かけ14年かかった)と新聞発表。米国籍の中学生(13歳)がチヨモランマ(8,888m)に登頂成功。史上最年少での制覇。7大陸の最高峰登頂もビンソンマシフ山(南極) 残すのみ。と報道されている。キーワードは高所登山・世界初。

エベレスト世界初の女性サミッターは1975年5月5日・田部井淳子さん。丁度35年前の出来事。素晴らしい記録に目もくらみそうだが・・・一段落したら、数日は谷川岳周辺のブナの新緑を眺めながら歩いてみよう。



バルドールピーク遠征隊・日本チーム